令和５年６月　№343

学　校　だ　よ　り

中央区立京橋築地小学校
東京都中央区築地２丁目13番１号

新たな日常の創造

校長 佐藤 興二

先月８日に新型コロナ感染症が第５類に引き下げられ、社会が大きく変わりました。それに伴い、子どもたちの学校生活にも大きな変化がもたらされています。例えば、マスクの着用については個人の判断に任され、マスクを着用しない子が増えています。また、これまで規制されていたグループ学習や歌唱についても制限が緩和され、コロナ以前の学習にどんどん近づいています。

変化していく日常

以前、通勤電車の広告にとても気になるものがありました。それは、コロナ禍でも元気に生活しようというもので、写真家のエリックの作品とコメントが流れるものです。エリックさんは、ストリートで出くわす人々を至近距離で撮影をすることを得意とする写真家で、被写体となった人物のその内面が映し出されているような作品が多くあります。その広告の中で、エリック氏は、マスクをしている若者の写真とともに、「日常が壊れてしまったとは思わない。新しい日常になったと感じています。マスクも新しいファッションアイテムが一つ増えたってことです。」と言っています。変化していく日常をマイナスと捉えるのではなく、プラスに考えていく思考こそが、変化の激しい社会に適応し、新たな価値を創造していくものだと感じました。

新たな教育活動へ

コロナは、学校の学びも大きく変えました。一番の大きな事は、一人一台のTPCの貸与です。これまでコンピュータ室に行かなければ操作できなかったPCが一人一台となり、子どもの身近となり、調べ学習やまとめ学習、オンライン授業に大いに役立っています。学習内容は変わりありませんが、学び方が大きく変わったのです。今後はこの学び方に応じた学習内容に変化し、新たな教育活動が次々と生まれ、子どもたちの新しい価値の創造がされる予感がしています。

これからの時代を創る

これからの時代の教育活動は、今まさに創られています。これまでの教育活動を見直し、新たな価値を見いだし、常に変化・変容していく。旧態依然としたやり方に疑問をもち、今の時代に即した活動へと変容させることが、今の教育には必要なのではないでしょうか？そのためには、学校だけのアイディアではなく、子どもたちからのアイディア、保護者・地域からのアイディアが必要です。

これからも、子どもの成長のためを共通の目標として共に新たな日常を、これからの時代を創造できることを願っています。

６月の行事予定

日	曜	主な行事予定
1	木	セーフティ教室
2	金	校外学習（2年）学力向上を図るための調査（5年）
3	土	
4	日	
5	月	委員会③
6	火	安全指導　体力調査①
7	水	体力調査②　セカンド前健診　詩の日（夏）
8	木	セカンドスクール始（4年） 三越教育プログラム（5年）
9	金	セカンドスクール終
10	土	
11	日	
12	月	クラブ③　読書週間始　色覚検査（4年）
13	火	水泳指導始　５時間授業
14	水	
15	木	特別時程
16	金	特別時程
17	土	土曜学校公開日　３時間授業
18	日	
19	月	特別時程
20	火	SOSの出し方に関する授業（6年） 館山臨海学校保護者説明会（5・6年） 読み聞かせ（教員）
21	水	学力向上を図るための調査（4年）
22	木	なわとびday　外国語研修のため4―2のみ5時間授業 ※その他は4時間授業
23	金	読書週間終　避難訓練（引き取り訓練）
24	土	
25	日	開校記念日
26	月	委員会④
27	火	
28	水	縦割り班遊び②
29	木	校外学習（1年）　特別時程
30	金	個人面談①　特別時程

生活指導主任　金子　陽一

新年度が始まって、２ヶ月が過ぎようとしています。１年生が入学し、その他の学年も１つ進級し、どの学年も新たな気持ちで生活を送っています。その中で、とても感心できることがあります。それは「挨拶」です。京橋築地小学校の児童は、みんな「おはようございます」や「さようなら」などを、自分からすすんで言う姿が、多く見られます。自発的に行動する理由は、何なのでしょうか。それは「お互いが気持ちが良い」では、ないでしょうか。

学校には、きまりがあります。きまりがあるのは、「お互いが気持ちよく生活する」ためです。子どもが自分から「お互いが気持ちよくなるため」と意識して行動をする。これが本来のあるべき姿なのかも知れません。では、挨拶以外のきまりはどうでしょうか。学校内だけでなく、登下校中のきまりはどうでしょうか。日頃から、職員は一丸となって子どもたちに、指導をしています。しかし、子どもは学校だけでは育ちません。地域や保護者の方と一緒に、同じ方向で指導していくことが大切ではないかと考えます。ぜひ、おうちでも学校のきまりについて、話し合ってみてください。そして「何のために、このきまりがあるのか」を、子どもに聞いてみてください。子どもは、自らすすんで行動を変えると思います。御協力を、お願い致します。

しおかぜ教室

しおかぜ教室　鳥潟　久仁子

しおかぜ教室に在籍する子どもは、週２時間程度しおかぜ教室に来室します。そして、自分の課題に合わせた学習を、個別や小集団のグループで行っています。

ここでは、学習の一部を紹介します。

〇先の見えない不安から、授業に集中できなくて落ち着かない子は・・・

→学習の流れや内容・時間を目に見える形で示し、見通しをもった行動ができるように。

〇友達と関わりたいけれど、自分の気持ちを伝えることが苦手な子は・・・

→遊びや会話の場面を想定した表現の練習を重ね、適切な言葉づかいや表現方法が身に付くように。

〇読むことが苦手で、授業に遅れがちになる子は・・・

→目からの情報をうまく取り入れたり処理したりする力が身に付くように。

お子さんの育ちで気になることがありましたら、学級担任、しおかぜ教室、専任教育相談員（スクールカウンセラー）、特別支援コーディネーター等にご相談ください。また、６月１７日の土曜校公開日にはしおかぜ教室の施設公開を行います。関心のある方は参観の際、お立ち寄りください。

季節の献立

栄養士　吉﨑　涼子

生きていく上で欠かすことのできない「食べること」。生涯にわたって健康で心豊かに暮らしていくためには、子どもの頃から食に関する知識を身に付け、健全な食生活を実践できる力を育むことが重要です。学校給食では、児童の嗜好、栄養バランスに考慮した上で、季節感のある食事内容とするとともに、家庭における食事の見本となるような献立となっています。特に、中央区では、今年度から毎月取り組む食育項目が「世界の料理」から「季節の献立」へと変更されました。新しい取組ということもあり　私自身、どんな献立にしようかと日々考えをめぐらせています。子どもたちにとって、「季節の献立」がおいしく、そして楽しみにしてもらえる給食となるよう努めて参ります。